



# 弘前大学

(青森県)



本州の最北端で日本をまなび、世界に発信し、地域と共に創造する。

## ■大学紹介

### ① 大学の特色及び概要

1949年に設立されてから、青森県内および近県の教員、医師、公務員等の人材育成を担ってきた、歴史のある国立大学です。5学部、7研究科で多彩な分野の研究を行っています。

設立：1949年

学生数：合計：6,790人  
学部生：5,898人  
大学院：892人  
留学生数：207人

### ○学部

人文社会科学部、教育学部、理工学部、農学生命科学部、医学部

### ○大学院

(修士課程)	(博士課程)
人文社会科学研究科	地域社会研究科
理工学研究科	理工学研究科
農学生命科学研究科	保健学研究科
保健学研究科	医学研究科
地域共創科学研究科	

### ② 国際交流の実績

海外協定校47校（21国）  
海外拠点2箇所（中国1、タイ1）

### ③ 過去3年間の受け入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受け入れ実績

2019年：留学生数207人、日研生3人  
2018年：留学生数200人、日研生1人  
2017年：留学生数156人、日研生1人

### ④ 地域の特色

弘前大学がある弘前市は、人口約17万の町に4つの大学がある学園都市です。もともと津軽藩の城下町として栄えた由緒ある町ですが市の周囲は農村部で、比較的物価が安く、留学生には住みやすい町であると言えるでしょう。市はコンパクトにまとまり、大学の周囲には学生向けのアパート、食堂や居酒屋などで学生街が形成されています。市の繁華街に歩いて15分～30分程度で行くことができます。学生の主な交通手段は自転車です。



## ■研修・コースの概要

### ① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

### ② 研修・コースの特色

#### ○様々な分野の勉強が可能な環境

留学生用の日本語日本文化関係科目から、学部の専門科目まで、幅広い分野の授業を受けることが出来ます。

また、学部の教員が指導教員としてつきますから、日本語能力に応じて日本人と同じ指導を受けることができます。

弘前は地方の小都市ですが、伝統ある城下町で、伝統的な生の日本文化に容易に触れることができます。

#### ○学部に所属して研究室の一員に

日研生は、人文社会科学部か、教育学部かいずれかの学部に所属し、特に日本語能力が高い学生は日本人学生と一緒にゼミナールに参加、ゼミの行事に参加しています。

(近年、日研生を受け入れた教員の専門分野は、日本文学、比較文学、日本史、思想史、国語学、言語学、言語教育学、社会学、日本美術学、民俗学、考古学、国際政治などです。)

#### ○充実した実地見学・体験学習

留学生向けの「日本語・日本事情科目」は実地体験、体験学習を多く取り入れております。

### ③ 受入定員

4名（大使館推薦 2名、大学推薦 2名）

### ④ 受講希望者の資格、条件等

専門によって以下の条件を加えます。

・日本で調査・研究活動をする予定の学生は、調査・研究活動に必要な言語能力があること

・日本で文献収集を行う予定の学生は、日本語で文献を読む能力があること。

#### （注意）

日本に関する特定の専門分野（日本文学「古代、中世、近代、現代」、日本語学「古代、中世、近代現代」、日本史「古代、中世、近代」、日本考古学、日本美術史、日本経営、民族学など）を学ぶ希望のある学生は、分野名を願書に明記することが必要です。

また、文学と歴史については、時代を示すことが可能であれば望ましいです。学びたい分野として「日本語」「日本文化」「日本事情」としか書かれていないと、これらは日本の大学では専攻名としては扱われていませんので、専門が違う教員が指導教員になる場合もあります。

### ⑤ 達成目標

○日本語：より高い総合日本語力（N3～N1超）の獲得。

○研究対象分野：対象分野についてのプロジェクトを行ったり発表したりできるようになる。

### ⑥ 研修期間（在籍期間）

- ・ 2020年10月1日 ～ 2021年8月31日
- ・ 修了式は8月上旬を予定
- ・ 1：秋学期 10月1日 ～ 2月上旬
- ・ 2：春学期 4月上旬 ～ 8月上旬 各16週

### ⑦ 奨学金支給期間

2020年10月 ～ 2021年8月

### ⑧ 研修・年間スケジュール・

9月下旬：渡日（2019年は9月18日前後）  
秋学期オリエンテーション

10月：総合文化祭

11月：青森県留学生交流ジャンボリー

12月：桔梗野餅つき大会

12月：クリスマスパーティー

2月：春季外国人留学生卒業懇談会

4月：春学期オリエンテーション

5月：桜まつり

8月：ねぶた祭交歓会・修了式

8月：桔梗野町会盆踊り

8月下旬：帰国



### ⑨ コースの修了要件

〇本プログラム修了者には、必修科目と選択科目を合わせて、1年で20単位の修得と修了レポートの提出を条件として、研修修了証書を授与します。

〇授業科目を履修した者については、試験の上、合格した者に単位を与えます。

〇早期修了は認めておらず、成績証明書の発行は可能である。

### ⑩ 研修・コース科目の概要・特色

#### 1) 研修・コース科目の特徴

一般学生・短期プログラム用の授業を受講しながら個々の専門に応じた資料収集、調査等の指導を受ける。

#### 2) 研修・コース開設科目

##### I) 必須科目

##### 日本語科目

(科目名)	(回数)
中級（口頭表現）	週2回
中級（読解）	週1回
中級（作文）	週1回
中級（総合）	週1回
中上級（口頭表現）	週1回
中上級（読解）	週1回
中上級（作文）	週1回
中上級（文法）	週1回
上級（口頭表現）	週1回
上級（文章表現）	週1回

オリエンテーションの中で行われる日本語プレースメントテストの結果によって、自分のレベルに応じた日本語科目を受講することとなる。

## II) 選択科目

(科目名)

津軽近代文化史

日本文学とアイデンティティーの形成

世界の芸術・芸能—音楽人類学

日本の女性による文学

青森の食と産業化

グローバル社会・経済

日本の絵本の世界

日本の戦争文学

※以下の3及び4についても選択科目である。

## 3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目

(科目名)

日本のスポーツ

津軽の工芸

青森エクスカーション

日本における地域ツーリズム

日本の消費文化

インターンシップ

## 4) 日本人学生との共修がある科目

(科目名)

やさしい日本語で留学生と話そう

学習中の言語でコミュニケーション

日本語教育

その他所属学部において開講される授業・  
教養科目等

### ⑪ 指導体制

- ・日本語担当教員

小山 宣子 国際連携本部 准教授  
(日本語教育学)

鹿嶋 彰 国際連携本部 准教授  
(日本語教育学)

笹森 圭子 国際連携本部 助教  
(日本語教育学)

- ・日本文化・日本事情担当教員

諏訪 淳一郎 国際連携本部 准教授  
(文化人類学)

サワダ・ハンナ 国際連携本部 准教授  
(比較文学・文化)

学業面では、主に学部の指導教員と国際連携本部の教員が、生活面では、指導教員および国際連携本部の職員が指導、助言に当たります。



### ■宿 舎

国費外国人留学生（日研生を含む）を対象とした宿舎は現在ありません。希望により、市内のアパート（2万5千円～3万5千円程度）を紹介できます。

### ■修了生へのフォローアップ

#### ○フォローアップ実績の一例

- ・修了レポートを卒業論文につなげるために、弘前大学教員がサポート
- ・再度日本に留学し、大学院に出願している学生へ、弘前大学教員がサポート
- ・母国での研修分野での大学院進学のサポート

#### ○修了後のキャリアパスの一例

- ・母国で日本語教員として就職
- ・母国や日本の企業で専門性を生かした仕事に従事

### ■問合せ先

<担当部署>

弘前大学国際連携本部

住所：〒036-8560  
青森県弘前市文京町1

TEL：+81-172-39-3109 (直通)  
FAX：+81-172-39-3133  
Email：jm3109@hirosaki-u.ac.jp

<ウェブサイト>

弘前大学国際連携本部：  
<http://www.kokusai.hirosaki-u.ac.jp/>  
弘前大学：  
<https://www.hirosaki-u.ac.jp/>